

- 1966 美術研究所アトリエ・ルポー創設（杉並区西荻窪）
ルポー・レポート（デッサン指導記録；1ヶ月の体系的実践） 編集
- 1968 高円寺・学校法人中央ゼミナール協力校となる。「美大専科」開講
公開講座〈デッサンとは何か〉 大池秀三氏（芸術評論誌「Create」
主宰）をゲストに
映画「美術体系によるデッサン探究」制作
- 1969 〈創・造〉の歩みNo.1～No.14（写実から抽象にわたる創造と変革の体系） 編集
- 1970 芸術構成学体系（1.配色調和 2.空間と配置 3.質と量 4.内容と形態） 編集
雑誌「学際」に〈学際人のイメージ；レオナルドと EXPO〉掲載
- 1971 〈美術体系〉基本技法体系テキスト「デッサンのすべて」 編集
- 1972 アトリエ・ルポー「関根英二展」銀座竹川画廊
- 1974 座談会「芸術と方法」をめぐって画家・美大教授・批評家・画学生などと
ルポーによる討論会、円地信二、吉田富士夫、東清各氏及び北国新聞他
アトリエ・ルポー「関根英二展」於、金沢・画廊ルネッサンス
〈芸術と方法 アトリエ・ルポー展〉 公開講座「絵画とは何か」
於、金沢・武蔵が辻スカイプラザ
- 1980 「構成展」 アトリエ・ルポー研究科グループ展
- 1981 「近・現代美術史講座」 西洋美術史：松谷彊氏をゲストに
美術史連続講座：〈創・造の歩み〉写実から抽象におよぶ創造と変革の体系
「美術史のタベ」 松谷彊氏をゲストに
- 1982 「現代美術を考えるタベ」 松谷彊氏を交えて
美術と教育を考える学際的シンポジウム〈美術を学ぶ〉於、新宿文化センター
画家・史家・評論家とルポーによる討論会—斉藤義重、三木多間、高見堅志郎、
清水鎌徳各氏を交えて。 「美術体系展」一生と学と技法の体系的研究

シンポジウム
〈美術を学ぶ〉より



- 1983 公開美術講座「美術の基本と展開」ゲスト、本山唯雄氏
公開美術講座「写実と表現」美術教育をめぐる座談会
本山唯雄氏、和田晶氏、池田太郎氏を交えて
- 1984 第6回美術科教育学会 全国大会
研究発表「美術体系の試み」於、東京学芸大学・全体会場
CiNii(国立情報学研究所)に所載。
ルポー展〈美術体系〉と研究員習作
公開美術講座「〈美術体系〉鋭明会」新井秀一郎氏をゲストに
公開美術講座「基本と展開—入試実技の本質を考える」
新井秀一郎氏を交えての対談—
- 1985 緑と芸術の街、国立に移転。
「関根英二〈素描〉展」 ギャラリー DAIMAS
ルポー6人展〈美術体系資料と研究員作品〉
ルポー講座「絵画を考える1」倉田三郎氏をゲストに—
ルポー講座「絵画を考える2；デッサン」倉田三郎氏、鶴巻豊氏を交えて
ルポー〈火・土〉講座
公開実技講習会「デッサン」「スケッチ」

ルポー講座
〈絵画を考える3〉より



- 1986 関根英二と美術体系展 ギャラリー DAIMAS
ルポー講座「絵画を考える3—絵画の見かた、あるいはいい絵、
うまい絵」倉田三郎氏、根岸正氏を交えて—



● 芸術表現の技術を、宇宙との交わりの
深さに極めようとするこれは
およそ類をみない研究である。

芸術と方法 アトリエ・ルポー展によせて
名取 堯（西洋美術史）

「芸術と方法 アトリエルポー展に」小柳幸朗（詩人）

1969年のある日、ぼくは一人の不思議な人物に出会った。彼の職業はまさしく画家なのだが、ぼくがそれまでに知っていたどんな画家とも似ていなかった。彼の語る言葉は、むしろ数学者のそのように聞えた。

例えば、ヴァレリイの「ユーパリノス（建築家）」の中で、ソクラテスはパイドロスに、なんでもいから空間に一本の線を引いてみろと命ずる。そこに描かれたものは、肉体と精神の恣意性に随順した、なんとも曖昧で気まぐれな一本の線だ。次にソクラテスは「では、ここにある二本の木から常に等距離にあるような一本の線を引いてみる」という。パイドロスは不思議そうに問う。「それになんの意味があるのですか」ソクラテスは答える。「私はこれ以上に人間的な行為を知らない」と。

ルポー・システムは、「二本の木から常に等距離にある線を引くという行為ほど、人間的なものはない」ということを、真底から感じ得た精神の所産である。関根英二こそ「自分は夢遊状態で傑作をかくよりは、むしろ完全な覚醒状態で駄作をかく方をこそ選ぶ」という人間的決意を、自覚的、実践的に言いつた最初の日本人画家ではないのか。

この「芸術と方法展」は、決して「傑作」を並べようとしたものではない。ここにはただ「完全な覚醒状態」を指向し、そこに到ろうとする幾人かの精神の軌跡が、その方法が、示されている。したがってこの展覧会を、現代の芸術状況の中に置くと、これは異様に孤独に純潔に見えるに違いない。

ルポーに ————— 松谷 彊（西洋美術史）

芸術は、いったい、これを人に教えることが出来るものなのだろうか。長年、私はそのことで悩んできた。いや、私ひとりのことではないだろう。ルポーの体系にしてからが、同じ悩みの別の表現、一見「幸福」ともみえる、やはり同じ悩みの表現を秘めているように思う。一見幸福にみえるというのは、ひとつには、実技に関する諸原理と、理論に関する講原理とが、裂けがたい一体に統合されているということだろう。芸術を学ぶということ論理的に追いつめていく時、こういう形が生まれることもあるのだろう。

しかも、その追いつめ方たるや、執拗といおうか緻密といおうか、ともかく他に例を見ない。

およそ美術教育、とくに実技の領域では、とかく何かがそこから抜け落ちがちだということも否定できない。その何かが、何であるか、私にはわからない。たぶん、それは芸術を「学ぶ」と、芸術を「創る」との間の、きわどい一線上にあるもののようにも思える。それは芸術を「創る」ことを願うすべての人が、人それぞれに担わねばならぬ宿命、さらさねばならぬ業（ごう）のようなものだろう。所詮、芸術に生きることは、人間にとって、ひとつの賭けなのだ。

アトリエ・ルポーのテキスト（講義要綱）の幾冊かに、目をとおしてみた。わかりにくい箇所も結構多いし、疑問もいろいろと湧いてくる。しかし、そうした難問のいくつかを通り抜けると、豁然と、ものが見えてくる。つまり説得され頭を垂れている自分を発見するのだ。といって疑問が出尽くしてしまうわけでもない。またぞろそれは頭をもたげてくる。例えば美術史のテキストの中で、クールベについて「構造的」写実が、マネやドガについて「現象学的」写実が云々される箇所に来た途端に、度肝を抜かれる。が、いまま言ったように、それを越えて読み進んでいくうちにそうしたコトバも突飛ではなくなり、全体の設計のなかでの必然性が追認されてくるのである。

- ルポー講座「絵画を考える4—絵画の見かた—具象・抽象など」
倉田三郎氏、根岸正氏をゲストに—
ルポー土曜講座「芸術と創造：創造の宇宙」
ルポー<火・土>講座：「創造表現の歩み」「油絵技法」
美術体系テーブルララー：実践美術史<創造の歩み>、
「デッサンのすべて」制作
- 1987 関根英二個展 ギャラリー DAIMAS
関根英二個展 草土舎ギャラリー
ルポー土曜講座「油絵制作12週」
ルポー講座「絵画を考える5—絵画的、あるいは構図など」
倉田三郎氏をゲストに—
- 1987 宇都宮格小品展 立川 WILL 金鳳堂ギャラリー
ルポー土曜講座「人物制作の技法」
- 1988 ルポー3人展：研究室・関根英二、宇都宮格、新免秀徳
WILL50人展 立川 WILL
関根英二展—八ヶ岳にて— フロム中武・ASフォーラム
くにたち文化・スポーツ振興財団評議員として
くにたちっ子展の企画・審査に参画。
- 1989 WILL50人展（第2回）立川 WILL
宇都宮格個展 フロム中武・ASフォーラム
国立市国際交流記念品一式の企画・制作
国立市テレホンカードの企画・制作
- 1990 WILL50人展（第3回）立川 WILL
ルポー<美術体系習作展> さくら銀行国立ロビー
- 1991 WILL50人展（第4回）立川 WILL
ルポー<美術体系習作展> さくら銀行国立ロビー
倉田三郎画集 旅の素描「歩いた描いた」編纂に参画
たましん歴史美術館。
- 1992 WILL50人展（第5回）立川 WILL
関根英二展—山に寄す— ギャラリー DAIMAS
関根英二展—イメージ・国立展—くにたち市民芸術小ホール
色彩専門誌「カラーエイジ」No.10～No.15, 色体系試論連載
- 1993 WILL50人展（第6回）立川 LUMINE
ルポー<八ヶ岳合宿展> さくら銀行国立ロビー
- 1994 WILL50人展（第7回）立川 LUMINE
第25回日本色彩学会 研究報告「美術体系の色宇宙」
於、四天王寺国際仏教大学 CiNii(国立情報学研究所)に所載
カラーフォーラム JAPAN 研究報告「色と空間と体系」
於、工学院大学
- 1995 WILL50人展（第8回）立川 LUMINE
第26回日本色彩学会 研究報告「色と質量と力」
於、大妻女子大学 CiNii に所載。
カラーフォーラム JAPAN 研究報告「色宇宙四属性体系
による直観的配色法」 於、工学院大学
ルポー<八ヶ岳合宿展> さくら銀行国立ロビー
描かれた国立(くにたち郷土文化館 開館1周年記念展)に出品
- 1996 WILL50人展（第9回）立川 LUMINE
関根英二展—山に向かいて— ギャラリー DAIMAS
関根英二展—山に寄す— ギャラリー DAIMAS
美術研究所ルポー展 ルミネギャラリー
ルポー<八ヶ岳合宿展> さくら銀行国立ロビー
東京テクニカルカレッジ マルチメディア科のデッサン・構図
・色彩学・美術史等の講座を担当。
- 1997 WILL50人展（第10回）立川 LUMINE
関根英二展—山ありて— ギャラリー DAIMAS
関根英二展—山に寄す— 銀座アートプラザ
美術研究所ルポー展 ルミネギャラリー
ルポー<八ヶ岳合宿展> ギャラリー DAIMAS
ホームページ開設
- 1998 WILL50人展（第11回）立川 LUMINE
関根英二展—山に詩う— ギャラリー DAIMAS
関根英二展—山々— ルミネギャラリー
美術研究所ルポー展 ルミネギャラリー
- 1999 WILL50人展（第12回）立川 LUMINE
美術研究所ルポー展 ルミネギャラリー
土曜講座「デッサン技法」
- 2000 WILL50人展（第13回）立川 LUMINE
関根英二展—清里— ギャラリー DAIMAS
美術研究所ルポー展 ルミネギャラリー
土曜講座「色の宇宙」「スケッチ技法」
- 2001 WILL50人展（第14回）立川 LUMINE
関根英二展 ルミネギャラリー
関根英二展 八ヶ岳 山梨県民情報プラザ
ルポー展/八ヶ岳合宿展 ルミネギャラリー
土曜講座「スケッチのための油彩」
インターネット「デッサン講座」連載開始
- 2002 WILL50人展（第15回）立川 LUMINE
関根英二展/ルポー展 くにたち市民芸術小ホール
美術研究所ルポー展 ルミネギャラリー
インターネット「Color Lecture」連載開始
<色宇宙> CD版 (movie/text data) 制作
- 2003 WILL50人展（第16回）立川 LUMINE
関根英二展/ルポー展 くにたち市民芸術小ホール
土曜講座「人物ゼミ」
関東談論講演「創造の宇宙と色宇宙」主催・関東法律事務所
- 2004 関根英二展—山に寄す— 山梨・谷櫻コミュニティーホール
関根英二展—山に向かいて— 八ヶ岳自然ふれあいセンター
関根英二展—八ヶ岳の四季— 八ヶ岳ロイヤルホテル
土曜講座「色宇宙」
- 2005 アトリエ、国立市矢川駅前に移転。
関根英二展—山に向かいて— 河口湖ショッピングセンター Bell
関根英二展—山に寄す— 銀座・中央美術画廊
関根英二展—山に向かいて— 山梨県民情報プラザ
関根英二展—八ヶ岳の四季— 八ヶ岳自然ふれあいセンター
関根英二展—山・大気・四季— 山梨・大英館
- 2006 宇都宮格 講師 アトリエルルポー所長を引き継ぐ
関根英二展—山と大気と四季— CATV 富士五湖ギャラリー
アトリエ・ルポー展 むっさ21ホール
美術体系テキスト「デッサンのすべて」CD版制作
- 2007 関根英二展—山に寄す— 河口湖ショッピングセンター Bell
関根英二展—山に寄す— 銀座・美術家連盟画廊
- 2008 関根英二展 (立川・たましんギャラリー)
アトリエ・ルポー展 (くにたち市民芸術小ホール)
- 2009 アート・スクランブル展 (八王子学園都市センターギャラリー)
- 2010 アート・スクランブル展 (八王子学園都市センターギャラリー)
- 2011 アート・スクランブル展 (八王子学園都市センターギャラリー)
アトリエ、国立市東2丁目現在の所在地に移転。
顧問 関根英二講師 12月19日 逝去 享年75
- 2012 アート・スクランブル展 (八王子学園都市センターギャラリー)
- 2013 関根英二・宇都宮格 二人展 (立川・たましんギャラリー)
アトリエ・ルポー展 (くにたち市民芸術小ホール)
宇都宮格 個展 (くにたち市民芸術小ホール)
- 2014 土曜講座<人物制作>、春のスケッチ会 (昭和記念公園)、
八ヶ岳スケッチ合宿、秋のスケッチ会 (相模湖公園) (昭和記念公園)
- 2015 春のスケッチ会 (御岳渓谷)、八ヶ岳スケッチ合宿 (山梨北杜市)
アトリエ・ルポー展 (くにたち市民芸術小ホール)
宇都宮格 個展 (くにたち市民芸術小ホール)
秋のスケッチ会 (昭和記念公園)
- 2016 土曜講座<人物制作>、春のスケッチ会 (新宿御苑)
八ヶ岳スケッチ合宿 (山梨北杜市)
秋のスケッチ会 (逗子市森戸海岸) (新宿御苑)

ことのついでに、私の疑問をつけさせてもらおう。また
また例えばだが、美術の歴史を、なぜ近代に局限するのか。
その限りではいたって精密なのだが、よりグローバルな視野
をもってすれば、近代の諸潮流は、古代、中世、中世末期、
近世初・中期などの、それぞれ内に摩擦を含む錯雑した力学
関係の所産だという一面を見のがすわけにはいくまい。それは、
同時にまた、絵画・彫刻・工芸・建築などの、文学や音楽の、
つまり芸術のカテゴリーの、さらには、さまざまな特性の息
づく民族的伝統の—これらのものの機微な織り目のなかで成
り立つという一面を見のがせないのだ。

ルポーにこういったグローバルな視野が欠けている？とん
でもない。ルポー、なかんずく関根英二氏と顔を合わせるとき、
互いに共鳴したり衝突したりするのは、きまってる広い場
面でのことであり、底知れず深い体験、永い教養の持ち主だ
ということが、だんだんわかってくる。グローバルな視野は、
ルポーの論理体系のよってくるゆえんの、いわば、大地のよ
うなものなのかもしれない。

- 2017 土曜講座<人物制作>
八ヶ岳スケッチ会 (山梨北杜市)
アトリエ・ルポー展 (くにたち市民芸術小ホール)
宇都宮 格 個展 (くにたち市民芸術小ホール)
- 2018 桜に集う展 (山梨・富士河口湖町ギャラリークルール企画展)
八ヶ岳スケッチ会 (山梨北杜市)